

働く人は多様で、働き方も多様化。
健康でいるためには何が大切？

働く時間以外の健康を守るための
メルクマールってないの？

働き方の自由度が増せば、企業は働く人の
健康を守りにくくなっていくのでは？

シン・健康確保の問い

- 働く人の健康
- 働く人の意識の変化と多様化する働き方に伴う課題への処方箋
- 健康格差への対処

時代の転換期を受け止め、
「今」からの
JUMP
を恐れない

健康を自分で守る
意識を持つ

予防の必要性
を理解する

周囲の関係者
と対話する

「平均的労働者」を基準とした一律的な
健康確保の時代から、個人個人に合わせた
テイラーメイドの健康確保の時代へ

シン・健康確保のテーマ

シン・健康確保の視点



専門家の7つの回答

- 「健康」は身体的な健康だけでなく、精神的な健康も含まれ、やりがいやコミットメントなどを感じながら仕事ができること
- 企業にとって、「働く人の健康」は生産性や企業の成長に直結する
- 企業は健康支援の仕組みを整え、働く人も自己で健康をマネジメントする意識を持つ
- 企業の内と外からの働く人への寄り添いが必要。内からは共感、外からは医師、保健師その他の専門職が総合チームを組み、寄り添う
- デジタルヘルステクノロジーの進展は、働く人個人の健康確保に新たな可能性をもたらすが、同時に新たな課題ももたらす
- 企業規模や雇用形態による健康格差は、これまでと同様の発想では対処できず、発想の転換とステークホルダーの総力の結集が必要
- 健康確保のための共通のベーシックな支援と働き方に合わせたテイラーメイド型支援の両利きの対応が必要

「誰かが守ってくれる・守ってもらう」から
「自ら守る・必要な支援を求める」へ

- 働く人のそれぞれの制約を踏まえたテイラーメイドな対応を
- 健康を維持して働くためには、企業は健康を守るための支援の仕組みを整え、働く人も自己の健康を自分で守る意識を
- 健康確保は予防が大切であり、デジタルヘルステクノロジーを活用した個別的な健康管理を
- 健康格差を縮めていくためには、職域と地域を分けて考える発想から脱皮し、地域や社会全体での健康支援を
- 働く人に寄り添うためには、企業の中での人事部門と産業保健部門の連携と、働く人と企業との信頼関係をつなぐ者の活躍を

シン・健康確保の基軸

